学校番号	１００７

令和３年度　看護科

教科	看護	科目	人体と看護	単位数	２単位	年次	１年次
講座名	看護入門						
使用教科書	人体と看護（教育出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

グループワークや発表を通じて、日常での良好なコミュニケーション作りや、将来の仕事に生かせる姿勢を身につけていきます。話し合いを通じて人との関わり方を学んでいきますので、積極的に参加しましょう。

また、解剖学においては体の仕組みと各器官の相互関係を学んでいきます。難しい単語がたくさん出てきますが、視聴覚教材を活用し、小テストを実施しながら理解を深めていきますので、その都度しっかり覚えていくようにしてください。

2　学習の到達目標

看護職を目指すにあたり、知っておくべき看護・医学についての入門知識や、コミュニケーションの基礎となる力を身につける。

人体・看護についての興味・関心を深め、自ら学ぶ意欲を高めていく。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	看護を行うために必要な医学と保健について関心をもち、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組むと共に、実践的な態度を身につけている。	人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断する能力を身に付けている。	看護を行うために必要な医学と保健に関する基礎的・基本的な知識を基盤として、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解を深め、その成果を的確に表現する。	看護を行うために必要な医学と保健に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解している。
評価方法	定期テスト 小テスト 学習状況の観察等	定期テスト 作品制作 レポート、発表 自己評価･相互評価等	定期テスト 作品制作 レポート、発表 自己評価・相互評価等	定期テスト 小テスト 学習状況の観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

ターム	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1ターム	人体の構成と働き	・第一印象ゲーム ・ネームゲーム ・看護の歴史 ・看護覚書 ・看護師の仕事内容 ・人体模型作成 ・人体の構成	○	○	○	○	a:人体の構成について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている b:看護の歴史や看護師の役目、人体の構成について考えを深めることができる c: 人とのかかわり、人体の構成について検討する技術を身に付けている d:解剖学の基礎となる人体の構成について、正しい知識を身に付けている	授業観察 プリント 小テスト 定期考査
2ターム	カウンセリング・運動器系	・自己肯定度イベントリー ・カウンセリングの展開 ・聴き方のいろいろ ・骨格の名称・構造	○	○	○	○	a: 骨格について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている b: 骨格の仕組み、コミュニケーションの取り方について考えを深めることができる c: 看護師として、より良いコミュニケーションを取れるよう技術を習得している d: カウンセリングの技法・骨格の名称・構造などの知識を身に付けている	授業観察 プリント 小テスト 定期考査
3ターム	運動器系・循環器系	・筋肉の名称・構造 ・血液、血液型 ・心臓の構造 ・バイタルサインの仕組み 実習：バイタルサインの測定	○	○	○	○	a: 筋肉・循環器系について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている b: バイタルサインの重要性について考えを深めることができる c: バイタルサインの測定技術を習得している d: 筋肉・循環器系の名称・構造などの知識を身に付けている	授業観察 プリント 小テスト 定期考査
4ターム	消化器・呼吸器系	・各臓器の名称と働き、及び疾患 ・ライフサイクル	○	○	○	○	a: 消化器系・呼吸器系について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている b:ライフサイクルについて考えを深めることができる c: 人の一生についての考えをまとめ、発表する技術を習得している d: 消化器系・呼吸器系の名称と働きなどの知識を身に付けている	授業観察 プリント 小テスト 発表 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。